



三笠だより

舞鶴市立三笠小学校
学校だより

令和元年9月30日発行

<http://mikasa.maizuru.ed.jp/>



生きる力 学びのその先へ



運動場のバックネット裏では、すすきやコスモスが秋風に揺れています。休み時間には、低学年の子どもたちが、秋の虫探しに夢中になっていました。秋の夜長、美しい虫の鳴き声を聞きながら読書に浸るのも、秋の楽しみの一つです。

新しい学習指導要領が、小学校は2020年度、中学校は2021年度から完全実施となります。「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の教育水準が保てるよう、文部科学省が定めている養育課程（カリキュラム）の基準です。社会の変化等に合わせておよそ10年に一度改定され、これをもとに、教科書が作成され、時間割等を定めていきます。

新聞等でも、「プログラミング教育」「道徳の教科化」「外国語（英語）の時間数増」など、新学習指導要領に関連する記事を目にされたことと思います。道徳、英語については、現在すでに新しいカリキュラムのもとで実施しています。

保護者の皆様に今年度初めにお配りした、新しい学習指導要領に関する文部科学省のリーフレットには、『生きる力 学びの、その先へ』というタイトルが付いています。さらに、「学校で学んだことが、子どもたちの『生きる力』となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。2020年度から始まる新しい『学習指導要領』には、そうした願いがこめられています。」と書かれています。

社会の変化の一つとして、人工知能（AI）の飛躍的な進化があげられます。子どもたちが社会人となる頃には、職業の内容や雇用の在り方も大きく変化していることが考えられます。知識の量ではAIに太刀打ちできませんし、AIが自ら知識を概念的に理解し、思考し始めているとも言われています。今後、人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を正しく与えたり、その思考の方向が人類の幸せに向かっているかどうかを判断したりできるのは人間です。

このように考えたとき、学校は、一人一人が自分の人生をたくましく生きる力をはぐくむ場所でありたいと思います。社会の変化が予測困難になるということは、学校教育の学びだけで学びが完結することはないということでしょう。であるならば、学校教育では「自分で学び続ける力を育てること」が重要になります。そのためには、自分から学ぼうとする力や、自分で見通しをもって粘り強く取り組む力が必要です。一人一人がこのような力を身に付けられるよう、保護者の皆様や地域の皆様のお力添えをいただきながら、教育を進めていきたいと思ひます。

10月13日（日）の運動会に向け、練習が始まりました。運動会は、目当てを持って一生懸命にがんばりぬく力を高めることのできる行事です。また、みんなで一つのものを創り上げる過程で、所属感や連帯感が生まれます。楽しく、そして子ども一人一人が成長を実感できる取組にしていききたいと思ひます。

子どもたちにとって、かけがえのないひとときとなりますよう、保護者・地域の皆様の温かいご声援・励ましをお願いいたします。また、PTA本部役員様や各部員様には、運動会準備・当日の活動及び後片付けまで大変お世話になります。よろしくお願ひいたします。



校長 小島 みどり